

(1) 地域の概要

「水」と「緑」が融合し、国内でも類を見ない多くの文化・交流施設が集積した岡崎地域は、京都の近代化のシンボリックな地域であり、市民をはじめ、国内外から年間延べ 500 万人を超える方々が訪れる「国際文化観光都市」京都の顔となる重要な地域です。

京都市では、岡崎地域の優れた都市景観・環境を将来へ保全継承しながら、世界に冠たる文化・交流ゾーンとしての機能を一層発揮するとともに、更なる賑わいを創出するため、「岡崎地域活性化ビジョン」を策定し、平成23年7月には、地元施設・団体、事業者、行政など官民地域連携のエリアマネジメント組織「京都岡崎魅力づくり推進協議会」が設立され、多くの主体の参加の下、ビジョン推進に向けた様々な取組を進めています。

(2) 地域の将来像

① まちづくりの理念・基本的な考え方

岡崎のコアゾーン（平安神宮と内国勧業博覧会の会場跡地に整備された文化・交流施設の集積）と周辺に集積する多彩な地域資源を対象に、その結びつきを強めることで、京都を牽引する更なる魅力的な地域を目指します。



② 地域の目標・将来像

岡崎地域の多様なポテンシャルを踏まえ、地域の個性や役割、発展の方向性などを議論し、50 年後 100 年後を見据えた長期的な見地に立った5つの将来像を設定しました。

将来像の実現に向けては、岡崎地域のポテンシャルの更なる活用を図るための地域連携や取組の融合はもとより、多くの叡智や資金が不可欠であり、地域の施設や団体・事業者・行政、市民や企業など幅広い主体が参加する取組として展開する必要があります。

○ 新たな歴史への挑戦

- ・ 進取の気風を受け継ぎ、未来に挑む人材を育む京の学び舎
- ・ 伝統産業から最先端産業まで世界に発信する未来の博覧会エリア

○ 創造する文化・芸術の都

- ・ 世界の一流と京都のほんものに酔う舞台芸術の本場
- ・ 岡崎のミュージアム群をフルに活かした本物のアートに出会えるまち

- ・ 世界から芸術を夢見る若者が集まるエリア
- **交流する観光・MICE拠点**
 - ・ 素晴らしき文化、歴史、人との出会い、京都発見への入口
 - ・ 多彩な資源集積を活かした岡崎ならではのニューツーリズム、MICE
 - ・ 世界の人々との交流の場
- **継承する山紫水明の杜**
 - ・ 水と緑に抱かれた世界に誇る京都の宝
 - ・ 先人が築いた遺産、誇りに触れる癒しとやすらぎの杜
 - ・ 未来への持続性と自然との共生を実感・実践する環境未来都市
- **歩いて楽しい祝祭と賑わいの空間**
 - ・ オープンスペースで連なるハレ舞台のネットワーク
 - ・ 市民が主役となる人生のハレ舞台、京都随一の祝祭空間
 - ・ オープンスペースを活かした、市民、観光客の安心・安全な空間

(3) 地域のまちづくりの方針

- **岡崎のエリアブランドを構築し、世界に向けて魅力・情報を発信**
 - ・ 多様な情報発信と岡崎の知名度向上
 - ・ 地域情報をつなぎ、融合させる取組 など
- **山紫水明の岡崎の魅力を創出する琵琶湖疏水と近代化遺産の保存と活用**
 - ・ 重要文化的景観制度を活用した水辺遺産の将来への継承
 - ・ 琵琶湖疏水の修景と活用 ・ 東山山麓庭園群の将来への継承と活用 など
- **文化芸術・MICE 拠点としての機能強化**
 - ・ 文化・交流拠点や、MICE 拠点としての機能強化 など
- **地域資源を結び、岡崎の総合的な魅力を高める、保全・創造の景観・まちづくり**
 - ・ 都市計画の変更（広々とした空間的魅力を持つ優れた都市景観の継承、施設の機能強化や賑わいの創出）
 - ・ 近代建築物や街路の保全・修景
 - ・ 地域へのアクセスと地域モビリティの向上
 - ・ 魅力あふれる公園づくり ・ 総合特区制度の活用 など
- **多くの人々が訪れたい新たな賑わいの創出**
 - ・ 夜の魅力創出や、歩いて楽しい岡崎、神宮道の歩行者専用化・プロムナード化
 - ・ 岡崎グラウンド空間の多様な活用（豊かな緑に囲まれた広々としたオープンな空間を大前提とした交流と創造のスペースや、災害時の広域避難場所としての空間・機能の確保等）
 - ・ 新たな憩いの空間と賑わい創出等 など
- **環境モデル都市を牽引する進取の取組の実践**
 - ・ 再生可能エネルギーの活用・省エネルギー化の促進
 - ・ 緑のマネジメント ・ 水辺・山辺の生態系の保全、情報発信 など
- **集客・国際観光拠点としての機能強化**
 - ・ 岡崎地域の総合的な観光案内やわかりやすい観光案内表示など受け入れ環境の整備 など